

ケーススタディ：

Sky が Precisely を採用することでエラーのないリアルタイムデータレプリケーションを実現

概要

Sky New Zealand にとって、トランスフォーメーションは特に新しいことではありません。同社では、顧客により豊富な選択肢とより優れた視覚体験を提供するために、30 年以上にわたって新しいテクノロジーに投資してきました。衛星ケーブルテレビ会社としてスタートした Sky は、後にストリーミングエンターテインメントやスポーツサービスを加え、最近ではブロードバンドインターネットサービスも始めました。

その背景で、Sky はトランスフォーメーションも進めました。つまり、デジタルトランスフォーメーションです。IT へのアプローチを最新化し、企業全体のツールセットを統合して、データアナリティクスなどの機能をクラウドへ移行しています。新しいデータウェアハウスとして Snowflake を選びましたが、分析用のデータをどのようにして取得し、クラウド上の Snowflake に取り込むかという課題に直面しました。

ビジネス課題

多くの企業と同様に、Sky でもサイロ化によって自社のデータからビジネスインサイトを引き出すことが妨げられていました。請求、契約者管理、財務管理などのビジネスシステムや勘定科目表は、すべて IBM i プラットフォームと Db2 で実行されており、プラットフォームごとにファイル構造が異なります。セットトップボックスおよびストリーミングプラットフォームから送信される消費データも独自のサイロで保存されていました。

長年にわたり、Sky では各サイロ間の橋渡し役を務めるカスタムメイドの抽出・変換・ロード (ETL) ツールを開発してきましたが、柔軟性に欠け、実行速度が遅く (通常 4 ~ 10 時間)、ネットワーク障害の場合にはエラーが発生しがちでした。異なるデータセットを参照したいという要望がある場合、IT 部門が ETL ツールを再構築しなければならず、時間と労力がかかるプロセスとなっていました。Snowflake をクラウドに移行するに当たり、Sky ではデータを移行するまったく新しい方法が必要になりました。

「当社が求めていたのは、IBM i システムからデータを抽出して Snowflake に取り込むだけでなく、できれば、社内で別のツールを構築しなくてもその作業をリアルタイムに近い速度で行うことができるツールでした」と語ったのは、Sky New Zealand 社コーポレートコア部門責任者の Quintin McKenzie 氏です。ソリューション導入期間の短さや高可用性アーキテクチャを取り扱う作業の複雑さなど、その他の課題によってもクラウド移行作業はさらに複雑になりました。

クライアント

Sky Network Television Limited

Sky.co.nz

- 衛星ケーブルテレビを提供するニュージーランドの放送会社。チャンネル数は 70 を超え、スポーツとエンターテインメントのストリーミングサービス、ブロードバンドインターネットサービスを展開
- 契約者数 990,000 超、従業員数 990 名
- ニュージーランドで初のフルデジタル HD 体験を提供

技術

- IBM i
- Snowflake
- Amazon Simple Storage Service (S3)
- Precisely Connect with Change Data Capture (CDC)
- SAS IT サービス

「Connect には看板に偽りのない機能があることがすぐに分かりました。設計通りに機能したのです」

– Sky New Zealand 社コーポレートコア部門責任者 Quintin McKenzie 氏

ソリューション

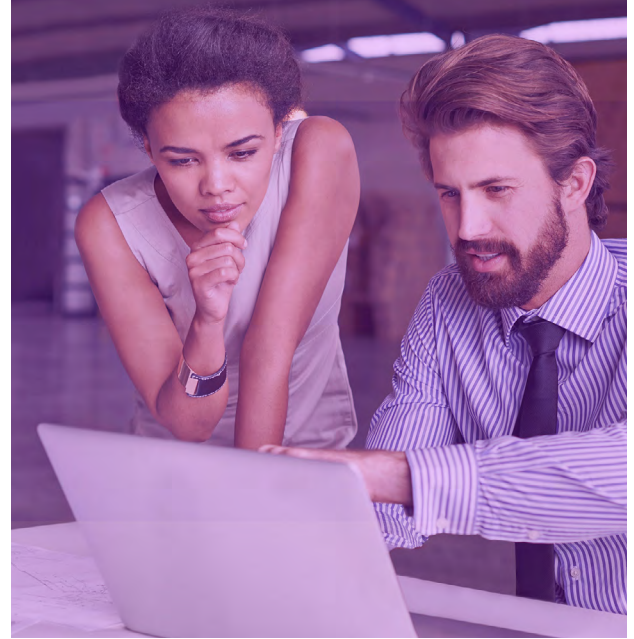
各製品を調査し、長年の技術サービスパートナーである SAS IT から提案を求めた後、Sky は Precisely Connect with Change Data Capture (CDC) を選択し、自社のレガシーデータを Snowflake に転送して、Amazon Simple Storage Service (S3) でデータのステージングを行いました。Precisely のデータ統合ソリューションである Connect は、Sky が求めていたほぼリアルタイムのデータフロー、プログラミング不要 (構成のみ)、障害発生時のデータロスなしというすべての要望に応えました。

2 週間で概念実証 (PoC) のインストールと構成を完了し、1 か月後には本番環境が完全に稼働できる状態になりました。およそ 1,000 のテーブルからデータを抽出し、リアルタイムで Snowflake にレプリケートしました。トランザクションは Db2 テーブルに記録されました。障害が発生したら、Connect がアクセス復旧時に適切な中断箇所から回復し、データロスが発生することはありませんでした。

利点

Connect を導入すると、その利点が直ちに現れ始めました。セールス部門は、Snowflake で集計・編集されたわずか数時間前のデータを確認し、レポートを作成し、それをビジネスダッシュボードや視覚化ツールに配信しました。

Connect の素早く簡単に実現できる柔軟な構成のおかげで、IT 部門はツールの開発という重労働に何時間も費やす必要がなくなり、より価値の高いビジネス貢献に焦点を絞ることができます。さらに、Connect はデータを Snowflake に直接転送できるため、Sky は自社のデジタルトランスフォーメーションおよび最新化の取り組みを前進させています。コアビジネスシステムは信頼できる IBM i プラットフォームで運用することを変更しないまま、クラウドや高度なアナリティクスを活用することができます。



「Connect はデータベース全体の機能を使いやすくしてくれました。新しいテーブルを追加する場合、抽出プロセスに簡単に追加してレプリケートできます」

– Sky New Zealand 社コーポレートコア部門責任者 Quintin McKenzie 氏